

シライトマキバイ (地方名: マキツブ、ツブ)



表1 シライトマキバイの年齢と殻高の関係

年齢	殻高(cm)	
	オス	メス
0	1.2	1.2
1	2.4	2.4
2	3.6	3.6
3	4.7	4.7
4	5.4	6.1
5	6.5	6.9
6	7.4	7.7
7	8.3	8.3
8	9.0	8.8
9	10.1	9.2
10	10.9	9.9
11	11.8	10.5
12	12.8	10.9
13	-	11.5

生態

- 年齢・成長：成長速度は雌雄で異なります。7歳までは雌の方が速く、8歳以降は雄の方が速く成長します。
- 成熟・産卵：雄で殻高が約8.5cm、雌で約10.5cmになると、半分の個体が成熟すると考えられます。産卵期は不明ですが、一年中産卵している可能性があります。
- 分布・移動：鹿島灘から北海道までの水深50m～500mに分布し、福島県では主に水深200m～300mに分布します。浮遊期を経ず稚貝でふ化します。
- 食性：海底に沈んだ水生生物の死骸等を食べていると考えられます。

漁獲の動向

震災前(平成22年)の漁獲量は340トン、漁獲金額は1億円でした。漁獲量・金額の約8割が沖合たこかご漁業、約2割が底びき網漁業によるものでした。震災後、平成24年から操業が再開されました。令和元年から3年までは沖合たこかご漁業による漁獲がなく、主に底びき網漁業により漁獲されました。令和4年の漁獲量は10トンと震災前年(平成22年)の2.8%でした。

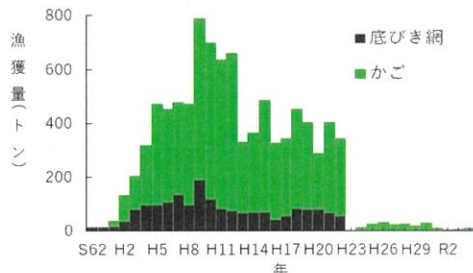


図1 シライトマキバイの年別漁業種類別漁獲量

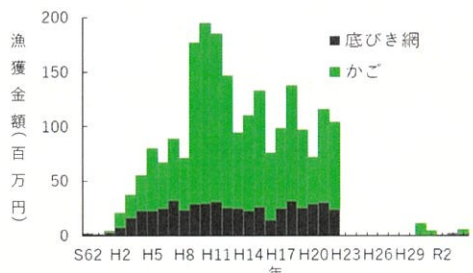


図2 シライトマキバイの年別漁業種類別漁獲金額
H24～29年は相対取引のため漁獲金額データなし

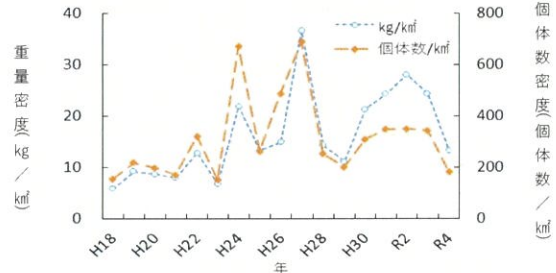


図3 調査船調査におけるシライトマキバイ分布密度

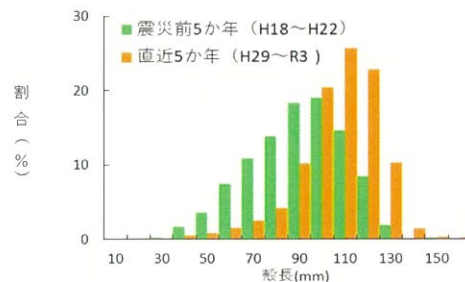


図4 調査船調査におけるシライトマキバイの殻高組成

資源の状態

震災前と比較して、分布密度の増加及び大型個体の割合の増加が確認されていますが、成長が遅く、調査船調査の結果では小型個体の割合が低水準となっています。

資源の水準：中位
資源の動向：減少

現在実施されている管理策

沖合たこかごの使用かご数は300個までと知事許可漁業の許可等に関する取扱方針で定められています。

今後考えられる管理策

小型個体の再放流が考えられます。